

病床機能別の集計結果の概要

(単位:床)

構想区域	医療機能	平成26年 (2014年) (7月1日現在)	平成27年 (2015年) (7月1日現在)	平成28年 (2016年) (7月1日現在)	【参考】	【参考】	【参考】
		病床機能報告 (稼働病床数) A	病床機能報告 (稼働病床数) B	病床機能報告 (稼働病床数) C	増減 C - B	増減 C - A	平成37年 (2025年) 地域医療構想 における 必要病床数 C
中北	高度急性期	1,167	1,167	1,173	6	6	403
	急性期	1,962	1,850	1,752	98	210	1,353
	回復期	263	326	398	72	135	1,227
	慢性期	1,486	1,457	1,508	51	22	1,161
	計	4,878	4,800	4,831	31	47	4,144
峡東	高度急性期	0	0	0	0	0	48
	急性期	776	730	757	27	19	279
	回復期	639	774	672	102	33	978
	慢性期	587	451	489	38	98	419
	計	2,002	1,955	1,918	37	84	1,724
峡南	高度急性期	0	0	0	0	0	0
	急性期	310	306	299	7	11	78
	回復期	26	0	0	0	26	102
	慢性期	124	162	147	15	23	83
	計	460	468	446	22	14	263
富士 ・ 東部	高度急性期	11	15	15	0	4	84
	急性期	866	800	758	42	108	318
	回復期	0	99	99	0	99	259
	慢性期	151	135	135	0	16	117
	計	1,028	1,049	1,007	42	21	778
総計	高度急性期	1,178	1,182	1,188	6	10	535
	急性期	3,914	3,686	3,566	120	348	2,028
	回復期	928	1,199	1,169	30	241	2,566
	慢性期	2,348	2,205	2,279	74	69	1,780
	計	8,368	8,272	8,202	70	166	6,909

> 医療機能を未選択の病床は含まず。

時点の異なる病床機能報告の数値については、以下の点から、単純に比較すべき性質のものではないと考えられるため、「増減」は「参考」扱いとする。

- ・ 医療機能の区分の基準は定性的なものであり、あくまでも医療機関の自主的な判断によるものであること。